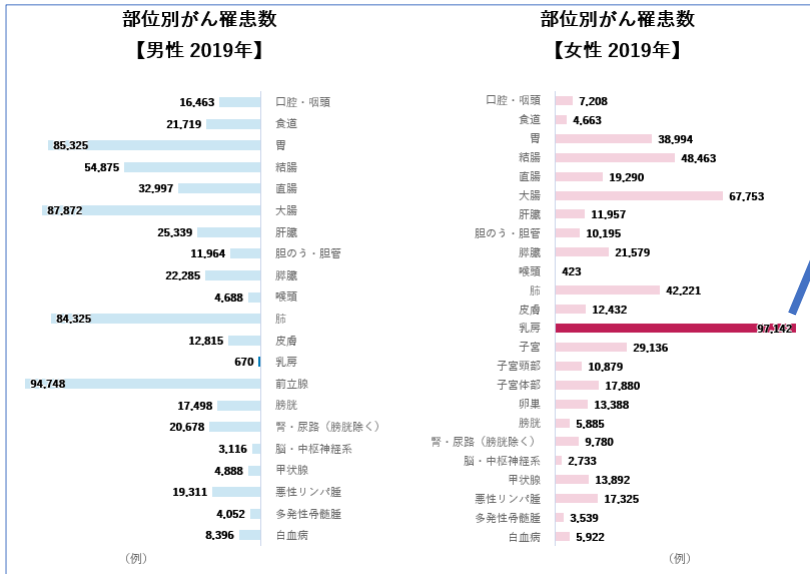


## 罹患（新たに診断されること）：ほかのがん種と比べるとどのくらいの頻度か？



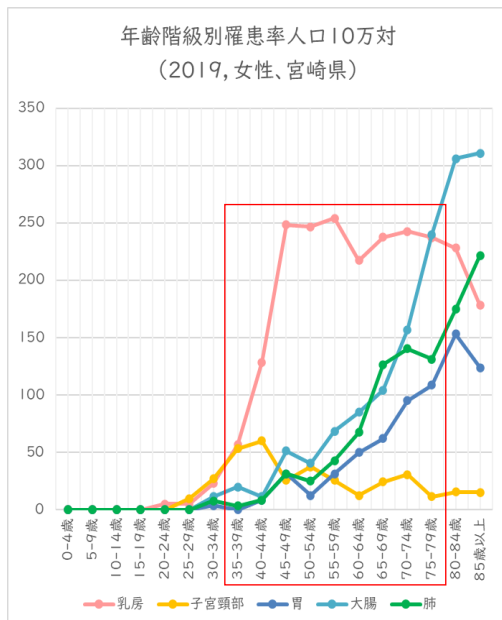
診断される数(2019年)

全国 97,812例  
 男性 670例  
 女性 97,142例

宮崎県 865例  
 男性 6例  
 女性 859例

(出典) 元データ：全国がん登録罹患データ (numberシート)  
 がん情報サービス [https://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/stat/cancer/14\\_breast.html](https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/14_breast.html)

## 年齢階級別罹患率の比較（5がん）：どの年齢層で多いのか？

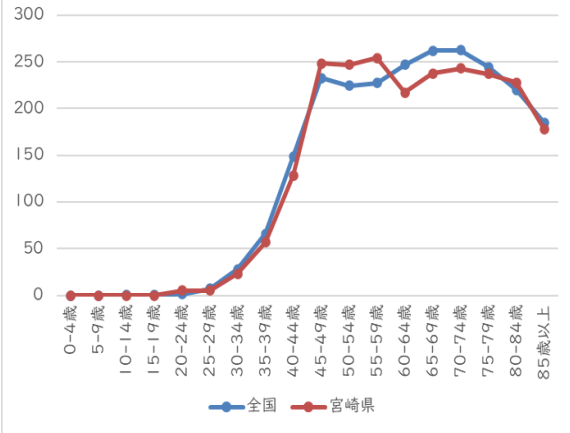


- 女性では30歳から増え始め40~70歳前半までは、どのがん部位よりも多くなります。
- 乳がんにかかる人は年々増えており、宮崎県では859人の女性が乳がんと診断されています。

(出典)  
 全国がん登録に基づく都道府県別がん罹患数・率2016年-2019年：ファイル内容  
 全国・都道府県別年齢階級別（85歳以上丸め）罹患率（人口10万人対）、  
 部位、性、診断年別

## 年齢階級別罹患率の比較（全国と宮崎県）：どの年齢層で多いのか？

乳がん(女)の年齢階級別・罹患率(人口10万人対)、2019



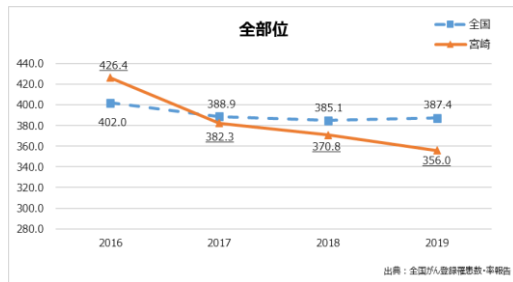
- 全国と宮崎県を比較すると、45～59歳の年代で宮崎県は全国に比べ罹患率が高くなっています。

(出典)

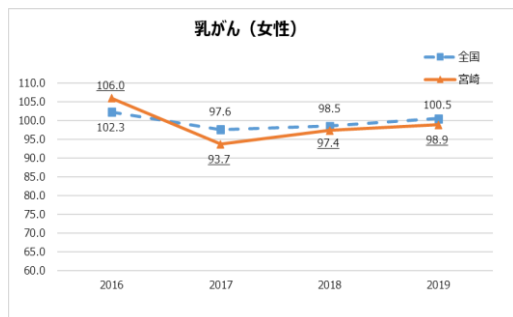
全国がん登録に基づく都道府県別がん罹患数・率2016年-2019年：ファイル内容 全国・都道府県別年齢階級別（85歳以上丸め）罹患率（人口10万人対）、部位、性、診断年別

## 年齢調整罹患率の推移（全国と宮崎県）

注）基準人口は昭和60年（1985年）モデル人口を使用



- がんは、高齢になるほど罹患率が高くなります。その為、年齢構成が異なる集団で罹患率を比較する場合や同じ集団で罹患率の年次推移を評価するために年齢調整した値を用います。
- 全部位のがんの年齢調整罹患率では、宮崎県は減少傾向です。
- 乳がんでは、横ばいで推移しています。

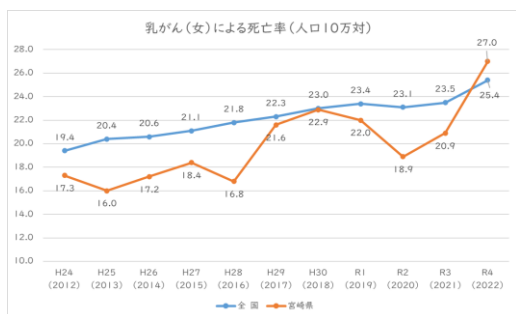


(出典)

全国がん登録に基づく都道府県別がん罹患数・率2016年-2019年：ファイル内容 全国・都道府県別年齢調整罹患率（人口10万人対）、部位、性、標準人口（昭和60年日本人モデル人口）、診断年別

## 死亡数・率の推移：過去10年間の乳がん（女）死亡数・率は？

年		H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	
乳房	死亡数	全国	12,529	13,148	13,240	13,584	14,015	14,285	14,653	14,839	14,650	14,803	15,912
	(人)	宮崎県	103	95	101	107	97	124	130	124	106	116	149
	死亡率	全国	19.4	20.4	20.6	21.1	21.8	22.3	23.0	23.4	23.1	23.5	25.4
	(全国順位)	宮崎県	17.3	16.0	17.2	18.4	16.8	21.6	22.9	22.0	18.9	20.9	27.0



- 全国、宮崎県ともに年々、死亡率は増加傾向です。
- 宮崎県は、全国に比べ乳がんの死亡率は低かったが最新では全国値よりも高くなっています。

(出典) 人口動態統計（確定数）

## 各市町村別の乳がんの死亡数推移

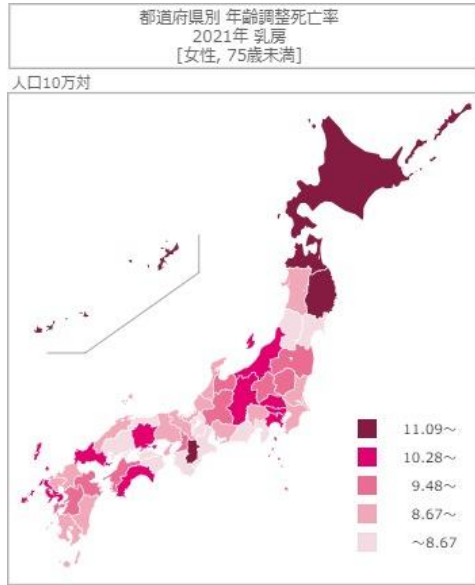
	H29(2017)		H30(2018)		R1(2019)		R2(2020)		R3(2021)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総数	-	124	-	130	-	124	-	106	3	116
宮崎市保健所	-	48	-	42	-	56	-	38	1	34
宮崎市	-	48	-	42	-	56	-	38	1	34
都城保健所	-	24	-	23	-	20	-	12	-	23
都城	-	21	-	21	-	20	-	11	-	20
三股町	-	3	-	2	-	-	-	1	-	3
延岡保健所	-	12	-	21	-	11	-	20	-	15
延岡市	-	12	-	21	-	11	-	20	-	15
日南保健所	-	11	-	10	-	7	-	9	-	9
日南市	-	8	-	9	-	5	-	7	-	7
串間市	-	3	-	1	-	2	-	2	-	2
小林保健所	-	10	-	13	-	5	-	6	-	9
小林市	-	9	-	8	-	2	-	3	-	4
えびの市	-	-	-	3	-	1	-	2	-	3
高原町	-	1	-	2	-	2	-	1	-	2
高鍋保健所	-	10	-	10	-	7	-	10	2	14
西都市	-	5	-	2	-	2	-	6	-	5
高鍋町	-	3	-	2	-	1	-	2	2	2
新富町	-	1	-	1	-	2	-	1	-	5
西米良村	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
川南町	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
都農町	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-

	H29(2017)		H30(2018)		R1(2019)		R2(2020)		R3(2021)		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
高千穂保健所	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	4
高千穂町	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向保健所	-	7	-	9	-	11	-	7	-	5	
日向市	-	5	-	4	-	7	-	6	-	4	
門川町	-	2	-	3	-	3	-	1	-	1	
諸塚村	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
美郷町	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	
中央保健所	-	2	-	2	-	6	-	3	-	3	
国富町	-	2	-	2	-	3	-	1	-	3	
綾町	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	

(出典) 衛生統計年報（第70～74号）

## 年齢調整死亡率の比較

注) 基準人口は昭和60年(1985年)モデル人口を使用



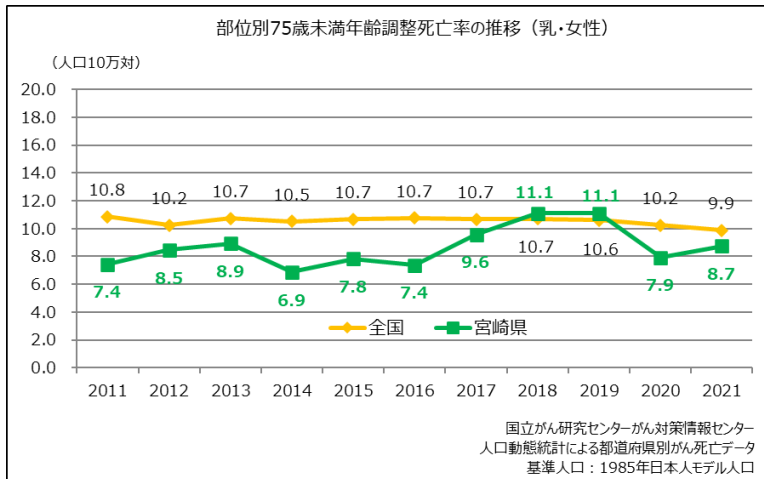
- 1990年代後半以降、全がんの75歳未満年齢調整死亡率は全国的に減少傾向にあります。
- がん対策推進基本計画(第1期、第2期)では、75歳未満年齢調整死亡率を10年間で20%減少することを目標としていた。(2005年92.4 → 2015年73.9; 人口10万対)
- 国の75歳未満年齢調整死亡率は、2005年から2015年までの10年間で15.6%減少(92.4 → 78.0; 人口10万対)、2020年までの15年間で24.7%減少した(92.4 → 69.6; 人口10万対)。
- 乳がんは、大都市圏および東日本で死亡率が高い。

(出典)

国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計)  
都道府県別、年別、性別、悪性新生物部位別75歳未満年齢調整死亡率(人口10万人対)

## 年齢調整死亡率の推移

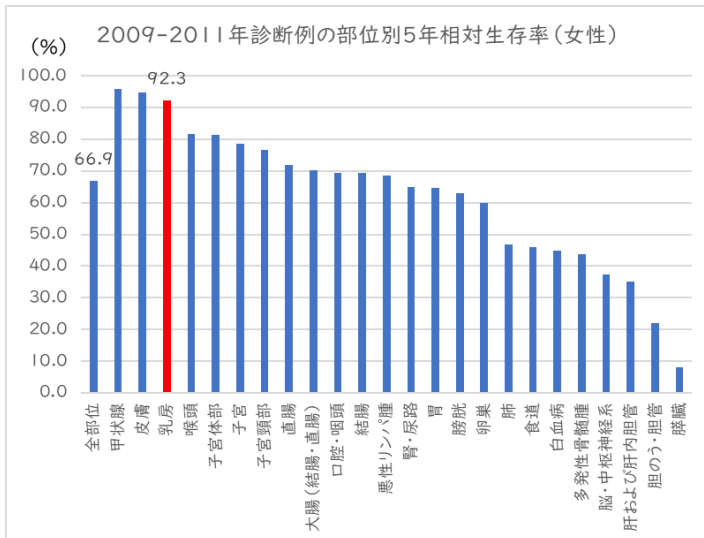
注) 基準人口は昭和60年(1985年)モデル人口を使用



- 宮崎県は全国に比べ乳がんの年齢調整死亡率が低い。

(出典) 人口動態統計(確定数)

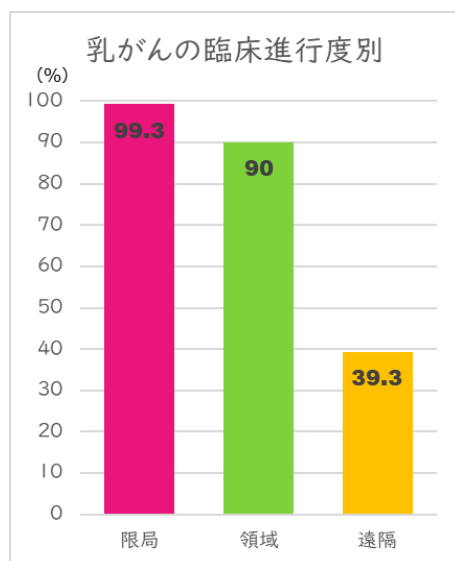
## 部位別がん5年相対生存率【女性 2009～2011年】



- 相対生存率:あるがんと診断された場合に治療でどのくらい生命を救えるかを示す指標の一つ。異なる集団や時点などを比較するために用いられ、診断から5年後の相対生存率(5年相対生存率)が慣例的によく用いられます。
- 乳がんは、他の部位に比べ相対生存率は高いことがわかります。

(出典) 元データ: 地域がん登録によるがん生存率データ  
がん情報サービス [https://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/data/dl/index.html#a30](https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/data/dl/index.html#a30)

## 部位別がん5年相対生存率【女性 2009～2011年】

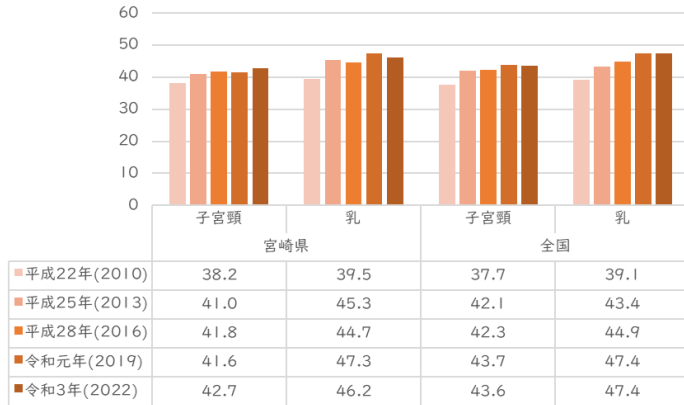


- 臨床進行度別でみると、早い段階で乳がんを発見し、治療することができると、5年相対生存率は99.3%である。
- **限局**: 原発臓器に限局している
- **領域**: 所属リンパ節転移または隣接臓器浸潤
- **遠隔転移**: 遠隔臓器、遠隔リンパ節などに転移・浸潤あり

(出典) 元データ: 地域がん登録によるがん生存率データ  
がん情報サービス [https://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/data/dl/index.html#a30](https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/data/dl/index.html#a30)

## がん検診受診率の比較（2010-2022の推移）

国民生活基礎調査によるがん検診受診率（過去2年間）



■平成22年(2010) ■平成25年(2013) ■平成28年(2016)

■令和元年(2019) ■令和3年(2022)

(対象年齢) ※過去2年間の受診率

子宮頸がん：20-69歳

乳がん：40-69歳

(出典)  
国民生活基礎調査

- 国の「がん対策推進基本計画（令和5年、第4期）」において**60%以上**の達成が個別目標の一つに掲げられています。
- 「国民生活基礎調査」においてがん検診受診率は3年に1度調査されています。

注意：この数値は、対象者の回答に基づくものです。実際に検診を受診した人数を集計したのではなく、対象者の記憶違いなどによる誤差が含まれています。